実践事例と分析

実践事例２
「サスティナブル和文化」実施学年１学年
１　本題材の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）
日本人の物を大切にする心を受け継ぎ、行動しようとする意識を持たせたい。

●題材（　サスティナブル和文化　）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）
日本の文化に興味はある。
浴衣も着るのは楽しいけれど、
普段着ることはない。

探究的な学び
他者と語り合う

（学習後）
日本人の精神はSDGｓのさらに上をいっている。現代の方が技術も発展して便利だけれど、過去に学ぶことは多いし、自分もその精神を受け継いでいきたい。

≪(授業者が考えた)題材学習後の「振り返り」例≫　＊「自己に引きつけた語り」部分

私は、和服に興味がなく、着るのも大変そうなので、着物なんて着たいとは全く思わなかった。でも、浴衣教室で着てみて、少し動きにくいけれど、着てみると楽しかったし、たまには着物もいいなと思った。

なにより、和服がこんなにもサスティナブルなものなんて知らなくてとても驚いた。今洋服は、大量に廃棄されていたり、リサイクルが難しかったり、環境にかなり悪いけれど、江戸時代の着物は洋服よりもずっと長持ちするし、着物として着られなくなっても、リメイクしやすかったり、灰になっても役に立つし、すごいことだらけだった。それに、もともと日本人は、「もったいない」精神で、何でも最後まで使い切るのが当たり前だと思っていたから、ゴミという考えすらなかったのかもしれない。そんなすごい文化を持っていたのに、今の私達を振り返ると真逆の事しかしていない。最近になってＳＤＧｓをやりましょうと言われているけれど、江戸時代の日本人はそんなこといわれなくても究極のＳＤＧｓを実行していたと思う。便利さとか、安さとかも大事だけれど、着物や日本の文化がなくなってしまうのは悲しいし、何より、日本人としてこの文化を残していかなければいけないと思う。これから私達は、昔に逆戻りして着物を毎日着ることは無理かもしれないけれど、夏祭りや行事でチャンスがあれば着物を着たいと思う。でも、和服を着る機会がなくても、江戸時代の「もったいない」精神は、生活の中のどこでも活用できると思う。買い物するときは、長く使えるものを選ぶことや、使い終わった後に他のものに利用するとか。日本には他にも素晴らしい文化がたくさんあるから、もっと知って、積極的に関わっていきたいと思う。

２　本題材で育成する資質・能力

知　識 技　能	・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用及び自国の伝統文化について理解している。 ・自分や家族の消費行動が環境や社会に与える影響を理解している。	○和服と洋服の構成や着方の違いを理解する。 ◯衣服に関する消費行動について、持続可能性の視点から見直し、環境や社会に与える影響を理解する。
思　考　力 判　断　力 表　現　力 等	・自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○江戸と現代の消費に対する考え方の違いに気付き、先人たちの価値観から自分の生活を見直すことができる。 ○身に付けた知識を活用し、持続可能性の視点から、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができる。
学びに向かう力 人間性 等	・よりよい生活の実践に向けて、衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをもち、自国の文化を継承しようとしている。	◯和服の学習を通して、日本の文化や先人たちに対する敬意と誇りをもち、自国の文化を尊重し、継承しようとしている。 ○自分の消費生活について課題を見つけ、持続可能性の視点から生活を改善するために工夫しようとしている。

３　題材構成（全７時間）

時間	学習課題（中心の問い） と ◆学習内容
1	身の回りの和服は？ ◆現代で和服を着る場面を考え、和の文様や色について知る。
２・３	和服を着てみるとどんな気持ちになるのか？ ◆浴衣着方教室で自分で和服を着てみる。
4	和服と洋服の違いは？ ◆和服と洋服を解体し、構成の違いとその理由を考える。
5	和服はサスティナブルなのか？ ◆江戸時代の和服の生産消費廃棄について調べる。
6	和服を普段着にすることに賛成か？反対か？ ◆日本人の消費に対する価値観が江戸と現代では違うことに気付く。
7	和の精神はどんなところに受け継がれているのか？ ◆衣服以外の和の文化について考え、自分の消費生活に関するものがたりを書く。

研究の分析（家庭分野）

（１）生徒の当たり前を捉え、実践力へつなげる題材構成

○　和服は生徒にとって身近なものではなかったが、和服や和の文化に興味を持つところからスタートし、浴衣体験を経ることで、遠い存在として認識していた「和服」を、より身近に感じることができていたようであった。

●　問いや疑問に対して生徒がじっくり調べたり、考えたりする時間が不足していた。調べ学習は生徒の題材への関心を高めるための大事な時間であるが、年間 35 時間の中で、時数をこれ以上増やすことは難しいため、効率的な調べ方や生徒間の共有の仕方など、短い時間で授業を進めていく方法を検討したい。

●　本題材前に学習した現代の衣服の内容と比較することでより思考が深まるが、前題材を思い出すのに時間がかかり、生徒にとって負担となっていた。現代の衣服と江戸時代の衣服を織り交ぜ、両者を比較しながら進められる題材構成を考えたい。

（２）生活の中から問題を見いだし、語り合い、探究するための共通体験

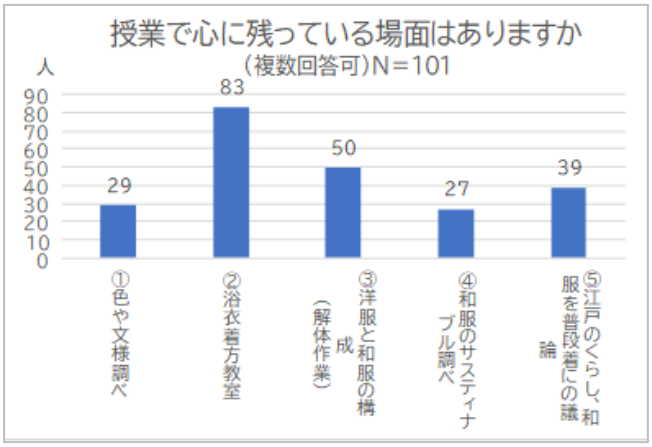
【題材終了後のアンケート】

	抽出生徒Ａ（Ｔ女）	抽出生徒Ｂ（Ｙ女）
１　ｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ和文化の学習前と学習後で和服のイメージは変わりましたか？	①変わった	②少し変わった
１の理由は？	和服は、新たなサイクルができるエコの最先端だったとわかったから	和服は使い終わるといろんなものに形を変えて使えるということを知ったから
２　授業で心に残っている場面はありますか（複数回答可）	①色や文様調べ ②浴衣着方教室 ⑤江戸のくらし、和服を普段着にの議論	③洋服と和服の構成（解体作業）
２の理由は？	おしゃれの中に、たくさんエコ要素があったから。	和服を切ってみるとどの布も長方形でびっくりしたから
３　授業で悩んだり、迷ったり、考えたりした場面はありますか？（複数回答可）	②浴衣着方教室 ③洋服と和服の構成（解体作業） ④和服のｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ調べ	②浴衣着方教室
３の理由は？	②着るときのコツ③どこからどこまでが一枚の生地なのか④昔の資料があまり多くなかった	初めて一人で浴衣を着てみてとても難しかったし、一回しただけじゃ覚えれなくて悩んだから
４　和服や和の文化で受け継ぎたいことは？	先を見越した再利用や、その中でもオシャレや個性を楽しむ姿を受け継いでいきたい。	お母さんからいとこへと受け継がれている振袖

生徒 A に比べ、生徒 B は授業で心に残っていることや悩んだりした場面が少ない。事前アンケートによると、生徒 A は和服に「とても興味がある」が、生徒 B は「少し興味がある」と答えており、題材に対する関心の度合いが、授業全体に対する意欲の差として表れていると考えられる。また、生徒 A は自分の着物を持っているが、生徒 B は自分の着物を持っておらず、生徒 B にとって自分に身近な問題として考えにくい状況であったことも関心が低い理由として考えられる。

○　事後アンケートから、題材の始めに浴衣着方教室を行い、全員が和服を着用するという体験を行ったことは、その後の探究や語り合いに有効であったと考えられる。

●　これまでに和服を着た経験があったり、家庭が和服をもっていたりする生徒は題材への関心が高いが、家庭経験が少ない生徒はたった１度の浴衣体験だけでは関心がなかなか高まりにくいため、それぞれの経験を語り合う場を多く設けたい。



【事後アンケート①】

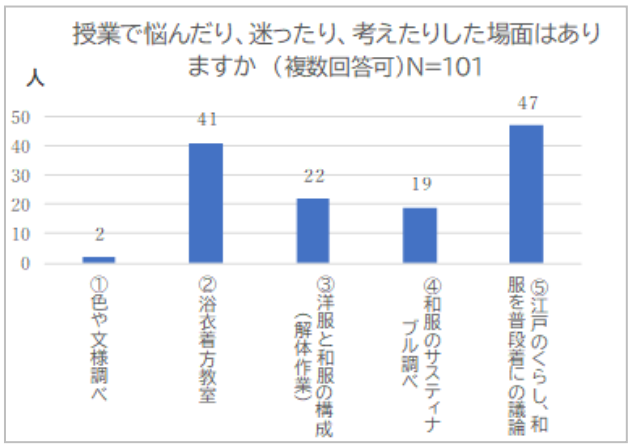
（３）家庭や生活につなげる問いの設定や実践レポートの工夫

○　事後アンケートから、「和服を普段着にすることに賛成か」という問いは、葛藤を生み出すのに有効であったと考えられる。

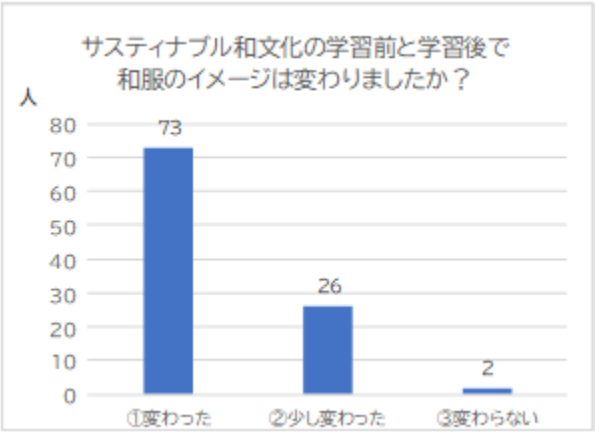
●　家庭での和服調査は、和服に対する家族の思いが表出されるため、語り合う上で有効である。生徒自らが家庭の和服について調べたくなるように、生徒の題材への関心が高い浴衣体験前後に調査を促すとともに、家庭への情報発信を行うことで自分の生活とつなげていきたい。

●　江戸時代の消費生活と比較する場面は、教師の願いが先行し、問いが生徒の思考に沿っていなかった。題材の最初に「江戸時代がサスティナブルだと言われているのはなぜか？」といった大きな問いを示すことで、生徒の思考の流れを自然なものにしていきたい。

●　事後アンケートではほぼ全員が和服に対するイメージは変わっているが、「和服」に対してだけの変容では今後の生活とつなげることは難しい。また少ない時数で、価値観という無意識を認識させることは難しく、時数を増やすこともできないため、３年間を見通した長期的な視点で考えていきたい。



【事後アンケート②】



【事後アンケート③】